

座長 新井 弘之

3. 正常人と血栓性疾患におけるアスピリン
超微量投与の血小板機能に対する影響

伊藤 粹子・真田 えい (新潟南病院) 内科
渡部 透
布施 一郎・服部 晃 (新潟大学) 第一内科

4. Eicosapentaenoic Acid (EPA)による
血液性状の変化

長嶋 勝・南雲 伸夫 (国立小千谷療養) 所, 神経内科
大野 司・湯浅 龍彦 (新潟大学) 神経内科
小池 亮子・小山 晃 (新潟大学) 神経内科
宮武 正
高橋 壮一郎 (長岡赤十字病院) 内科
鈴木 正博・川瀬 康裕 (同 神経内科)
渡辺 正雄・外山 孚 (同 脳外科)

座長 本間 義章

5. トロンボキサン合成酵素阻害剤 OKY-046
による実験的脳血管攣縮の予防

大杉 繁昭・石井 録二 (新潟大学) 脳外科
田中 隆一

6. 先天性異常アンチトロビンⅢ
「ATⅢ Toyama」の構造解析

小出武比古 (新潟大学) 第二生化学
高橋 薫・桜川 信男 (富山医薬大) 中検

血栓性静脈炎を頻発した先天性 ATⅢ 異常症の患者血漿より得られた異常 ATⅢ の機能異常をアミノ酸レベルで明らかにすると共に、ATⅢ とヘパリンとの結合に本質的に重要なアミノ酸残基を同定する目的で、異常 ATⅢ (ATⅢ Toyama) の構造解析を行った。

純化した異常および正常 ATⅢ をそれぞれブロムシアンで分解して得られた大小11種類のフラグメントをさらにトリプシンで消化し、高速液体クロマトグラフィーで分離した結果、83残基のアミノ酸よりなる CNⅢフラグメント中より異常ペプチドを単離同定した。そのペプチドのアミノ酸配列を決定したところ異常 ATⅢ では Arg-47 が Cys に置換されていることが分った。Arg-47 に対する DNA の塩基配列は CGT と決定されており C→T の1塩基置換が ATⅢ Toyama におけるアミノ酸置換の遺伝的原因と考えられる。また ATⅢ Toyama が heparin 結合能を全く失った ATⅢ であ

ることから Arg-47 が ATⅢ のヘパリン結合に重要なアミノ酸残基であることが示唆された。

帰朝講演

司会 野村 穰一
スウェーデンにおける1年間の研究生活
山梨医科大学第二内科
小林 勲 助教授

特別講演

司会 柴田 昭
キニンと血栓症
佐賀医科大学内科教室
斎藤 英彦 教授

第8回新潟血栓止血研究会

日時 昭和59年5月12日
場所 上越医師会館
幹事 野村 穰一

一般演題

座長 坂下 勲

1. 脳梗塞の血小板機能と再発について

高橋 壮一郎・荒井 奥弘 (長岡赤十字病院) 内科
鈴木 正博 (同 神経内科)
外山 孚・渡辺 正雄 (同 脳外科)
川瀬 康裕 (三之町病院) 神経内科

2. ウロキナーゼ療法における α_2 -PI の
変動

本間 義章 (佐渡総合病院) 神経内科
松林 俊衛 (羽茂病院) 検査室

目的: ウロキナーゼ (UK) の線溶効果は α_2 plasmin inhibitor を50%以上減少させないと期待できないが、脳梗塞に対して行われている現在の投与方法は α_2 PI をどこまで減少させるか検討した。

対象と方法: 新鮮な脳梗塞を対象とした。第一の方法は UK 2.4万単位をワンショット静注後、12万単位を2時間で点滴静注するもの、第二の方法は、第一の方法に